

◆まちづくりの主要課題の整理

(1) 安心・安全のまちづくり

阪神淡路大震災時の滋賀県内の最大震度は彦根市の震度 5、本市では震度 4 を観測し、平成 19 年（2007 年）4 月 15 日の三重県中部地震では震度 3 を観測しています。また、南海トラフ巨大地震被害想定（平成 26 年（2014 年）3 月 26 日滋賀県地震被害想定（改訂版））における本市での想定最大震度は 6 強となっています。

近年では、全国的に局地的豪雨、土砂崩れなどの自然災害も多く発生し、各地で深刻な被害をもたらしているなか、日頃から市民の防災意識を高めるとともに、自助・共助・公助の協働による地域防災力の向上、それを担う人づくり、災害に強い仕組みづくりによる防災・減災が重要です。

また、わたしたちの生命、暮らし、財産を守るため、防犯や交通安全に対する意識を高め、活動に取り組むことで市民・地域・行政が一体となったすべての世代にとって安心・安全な地域づくりも大切です。

(2) 人権を尊重したまちづくり

人権が尊重される、豊かで安心できる暮らしを守るためには、市民一人ひとりが「人権」について正しい理解と認識を深めることが重要です。子どもや高齢者の虐待、同和問題を身近なこととしてとらえ、さまざまな人権問題の存在に気づくことによって、心のバリアを解消していくことが必要です。互いの違いや価値観を認めあい、広く人権が尊重された地域づくりやまちづくりを展開していくことが大切です。

(3) 市民参加によるふるさとづくり

平成 26 年（2014 年）3 月に「湖南市地域まちづくり協議会条例」の制定により、すべての小学校区でまちづくり協議会を設置し、市民に協議会の役割が認知されつつあります。市民はこれまで地域で進められてきた清掃活動や地域での支えあいについては意識が高いものの、地域の問題を当事者として解決することや市の施策に参画することに目を向けることが少ない状況です。しかし、住みやすいまちを実現し、人口の減少を食い止めるためには市民が地域への誇りと愛着、協働の重要性を再確認し、ふるさとづくりに積極的に参加することが必要です。

また、市民の活動範囲の広がりを見ると、生活や交通などの利便性向上のための課題については、本市だけでなく近隣市町との連携により大きな効果が期待できます。

(4) 豊かな自然とともに暮らす

本市の中心を流れる野洲川は、市民の憩いの空間となるだけでなく、共有の財産として「野洲川親水公園魅力プロジェクト」など市民の手による景観づくり活動や保全活動も進んでいます。また、市の南北には阿星山、岩根山系の豊かな森林が広がり、さらに田園風景も多く見られます。将来の湖南省市について、市民の多くは自然が豊かであり続けることをイメージし、また、そのことを誇りに考えています。

このような恵まれた自然とともに、健康で快適な暮らしをめざすためには、市民と企業、行政がともに自然環境の保全や活用に取り組む態勢を構築する必要があります。

(5) 持続的发展を導く環境整備

本市は、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交流の要衝であり、名神高速道路の栗東湖南インターチェンジや国道1号（栗東水口道路）が開通したことにより、京阪神への交通の利便性が大きく向上しています。

この恵まれたポテンシャル（潜在能力）を生かし、企業誘致策の充実や都市計画マスタープランに基づく土地利用の適正誘導を図るなど、今後とも発展し続ける環境づくりが必要です。

また、これまで道路や上下水道などの都市基盤の量的な拡大を進めてきました。しかし、道路網や河川の整備については市民の満足度が高いものの、上下水道については、投資が料金に反映される独立採算制となることから、満足度が低い結果となっています。今後は市民の要望を踏まえた上で、投資の平準化と計画的な維持管理、修繕を進めていく必要があります。

(6) 利便性の高い交通ネットワークの形成

市内の道路の一部では朝夕の通勤・通学時間帯に渋滞が生じており、市民生活や地域交通に大きな影響を与えています。さらに、市民が湖南省市に住みにくい理由として交通が不便であること、理想のまちとしても「道路や公共交通が快適で便利なまち」が望まれていることから、道路交通や公共交通の利便性を高めた交通ネットワークを形成する必要があります。

JR甲西駅・三雲駅では、駅舎の改修・バリアフリー化、駅前広場などの整備が安全性・利便性の向上につながり、公共交通に関しては市民の満足度も高くなっています。今後は、JR石部駅舎のバリアフリー化とともに、交通ネットワークの拠点となる「まちの中心核」の創出を図るために、3つの駅の周辺市街地環境の向上を図る必要があります。

また、コミュニティバスの充実、歩行者や自転車^{（注）}が安心して通行できる安全な道づくりを進める必要があります。

(7) 商業サービスの強化と充実

近年、全国的に多数の大型小売店舗が郊外に進出したことにより、車社会に対応した商業環境が大きく進化し、買い物の利便性や多様性が高まりました。本市においても、平成26年（2014年）末に大型小売店舗が整備されたことにより、「買い物が便利だから」を住みやすい理由としてあげる市民が増加しています。しかし、住みにくい理由を「買い物が不便だから」とする市民も存在し、車に頼ることができない高齢者や学生などの市民にとって日常の消費生活が不便な状態が続いていることが伺えます。これらのことから便利で豊かな消費生活を支えるためには、交通網の充実や多様な形態の商業サービスの提供、商業施設の更なる充実が望まれます。

(8) 観光ネットワークの形成

英語版等のパンフレットを作成するなど積極的な観光情報の発信により、常楽寺、長寿寺、善水寺の湖南三山などの知名度が向上しています。さらに、市民産業交流促進施設ここぴあや魅力発信拠点施設HATによる地域産業の振興や交流人口の拡大、十二坊温泉ゆらら、じゅらくの里など多彩なレクリエーション施設や、貴重な国指定天然記念物のうつくし松をはじめとする自然資源を活用した観光ルートの設定や、グローバルな観光客も迎え入れるための環境整備が重要になっています。

また、市内の伝統産業や農林業、観光との連携により、藍染め体験・下田焼の作陶体験や、弥平とうがらしなどの特産物を生かした商品開発が進んでいます。今後は、近江一閑張や下田焼に代表される地域の特産品のブランド化とともに、関係機関と連携した一層のPRが必要です。

(9) 地域での教育・福祉・健康のネットワークづくり

多くの市民は湖南省が住みやすい理由として「近所の人たちがあたたかいから」をあげ、地域で困っている人を地域で支えあうことへの参加意欲も高いことから、良好な近隣関係が築かれていることが伺えます。本市においては発達支援システムなどの先進的な福祉施策が進められてきた経緯があり、このような福祉環境と高い市民意識を生かしながら、子どもや子育て家庭、障がい者、高齢者、外国籍市民が安心できるあたたかい地域福祉のネットワークづくりが期待できます。

また、高齢化が進む中、国においては平均寿命のみに着目するのではなく、健康寿命*を延伸させるような施策に重点を置きつつあります。本市においても健康診査など保健サービスの充実や市民の自主的な健康づくり活動の推進が望まれており、健康に対する意識は高まっています。今後は、大人だけでなく子どもも含めた誰もが心と身体の健康を守るための活動に積極的に取り組めるような支援が必要です。

(10) 心豊かな人づくり

少子化の進行や核家族化、地域コミュニティの希薄化などにより、家庭や地域の子育て力が低下するなど、子どもたちの生育環境には厳しいものがあり、生きる力の確実な養成が一層重要となっています。

また、青少年が積極的に社会に関わりを持ち、自立心や責任感、連帯感、寛容性などの人間性と社会性を養えるよう、人権尊重の精神に基づきながら青少年の健全育成に取り組む必要があります。

さらに、人生100年時代の到来が予測される中、より豊かに生きるため、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、働くことや、さまざまな主体と協働し、地域固有の魅力や特色を改めて見つめ直し、地域の維持発展に取り組むことで社会の課題解決につなげていく力を伸ばす教育が必要とされています。

(11) 歴史文化を大切にすまちづくり

湖南三山の常楽寺、長寿寺、善水寺や東海道五十三次の宿場の名残をはじめ、本市には多くの歴史文化遺産が点在します。湖南省景観計画では、「野洲川および国道1号周辺地区」とともに「三雲地域旧東海道沿道地区」と「石部地域旧東海道沿道地区」も重点地区に指定されており、東海道や宿場町としての歴史を継承した景観づくりが進められています。今後もこれらの貴重な歴史遺産を保全・継承するとともに、その周辺を含めた環境づくりなどに取り組むことが求められています。

(12) 地域の自然エネルギーを活用するまちづくり

国は、各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す「地域循環共生圏」を提唱しています。本市においても、「地域循環共生圏」を踏まえ、SDGsの考え方を取り入れることで、地域の自然エネルギーを活用したエネルギーと経済の循環による地域活性化に取り組んでいます。今後、自然エネルギーの活用をさらに広げていくためには、市民や事業者、行政などが一丸となって取り組んでいく必要があります。